

臨 牀

血管腫ニ對スル「ラヂウム」療法ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任皆見教授）

助 手 大 道 直 一

緒 言

「ラヂウム」ノ各種疾患ニ對スル治療ニ就テハ、已ニ夥シキ貴重ナル業績アリ。就中血管腫ニ初メテ之ヲ應用シ且著效ヲ認メシハ、Danlos, Wickham, Degrais 諸氏ニシテ、其後幾多ノ諸氏ニ據リテ、業績ノ發表ヲ見タリ。我國ニ於テモ、土肥、峯兩氏ニ據リテ之ガ發表ヲ見シ以來、岡村、櫻根、山田、藤谷、松浦、高橋、宗、安藤、三木、皆見、志賀ノ諸氏ニ據リテ追試報告サレ、就中皆見教授ニ據リテ詳論サル所アリ。敢テ今更余ノ蛇足ヲ附スルノ要ナケレドモ、幸ニ余ハ我教室ニ於ケル該治療ニ就テ發表ヲ命ゼラレシカバ、茲ニ發表セントス。

勿論我教室ニ於ケル該治療ニ就テハ、最近2—3年以來行ハレシモノニシテ、從來ハ主トシテ雪狀炭酸療法ニ由レリ。而モ我教室ニ使用セル「ラヂウム」ハDominici氏ノ筒形「ラヂウム」ノミニシテ、麻布製漆面圓形金屬製、硬護謄製等ノモノハナク、從テ其貼用ニ當リテモ、其疾患ノ種類及ビ部位、形狀等ニヨリテ、ソレニ各々適當セル「ラヂウム」ノ貼用不可能ナル缺點アリテ、眞ニ遺憾ナル場合多々アリ。讀者此點ニ關シテハ御諒察ヲ乞フ。

抑モ「ラヂウム」ハCurie氏夫妻ニ據ツテ發見セラレシ新元素ニシテ、其治療ノ主要點ハ、 α 線ハ其組織ニ及ボス作用淺在性ニシテ刺戟大ナルニ反シ、 β 線ハ透過力稍々深キモ勢力ノ微弱ナルガ故ニ組織ヲ刺戟スルコト少ク、 γ 線ハ容易ニ組織ヲ透過シ、之ニ刺戟ヲ與フルコト最モ輕微ナリ。故ニ α 及ビ β 軟線ハ皮膚ニ淺在セル疾患ノ治療ニ適シ、 β 硬線及ビ γ 線ハ深在ノ疾患ニ用フベシトナス。從テ理論上單純性表在性ノモノニハ軟線、深在性海綿様ノモノニハ硬線ヲ適用スベキモノニシテ、「ラヂウム」使用ニ關シテモ、第1ニ顧慮スベキハ、其病症ノ如何、第2ニ使用スベキ「ラヂウム」製品ノ如何ヲ知悉セザルベカラス。

然ラバ血管腫ニ於テ、單純性ト海綿様ト孰レノ場合ニ於テ「ラヂウム」療法ノ效果見ルベキモノアリヤ。是レ從來幾多ノ人々ニ據ツテ論議サル所ニシテ、Riehl, Burent, Laborde, 皆見諸氏ノ說ヲ參照スルニ、大體ニ於テ海綿様血管腫最モ適當ニシテ、單純性ノモノハ稍々之ニ劣ルトスルニ、諸家ノ意見一致スルモノノ如シ。

然ラバ其年齡如何ニヨル治療ノ效果ノ影響ナキヤ。是レ亦論議サルルコロナルモ、Burent, Newcomet, Laborde, Simpson 諸氏ハ年齡幼少ナル程治療機轉良好ナリト稱シ、一般ニ幼若者ニ於テ、大イニ治療ノ效果ヲ認メ得ルトノ說ニ一致セルモノノ如シ。

使用法ニ關シテモ、Exner, Fournien, Kromayer, Rucot, Wickham, Degrais, Beck, Gudzent, Newcomet, Laborde, Bayet 諸氏ノ各々説ク所アルモ、要ハ皆見教授ノ所謂、單純性血管腫ニハ淺在作用ヲ長日月ノ間隔

ヲ以テ成ルベク短時間ゾツ反覆セシメ、之ニ反シテ海綿様血管腫ノ如キ腫大セルモノニハ、探透作用ヲ數々且長ク利用シ、之ガ爲メニハ適當ニ濾過法ヲ用フベシトナスニ在リ。而シテ皆見教授ハ使用法ヲ大體3種類ニ分チ、1) 最初ヨリ引續キテ數日間貼用スル法、2) 1日貼用後1—2週間ノ間歇ヲ以テ繰返ス法、3) 3日或ハ4日貼用シテ、2週間或ハ3週間ノ間歇ヲ以テ繰返ス法トニ分タル。而シテ通常ノ場合ニ於テハ、2—3日或ハ4日間20—30—40'宛貼用シ、20日或ハ30日後ニ復タ繰返シ、此方式ヲ反覆スルヲ可トスト言ハル。

尙ホ治療中止ノ時期ニ就テモ、Laborde氏ハ全然褪色スルニ至ラズシテ濃紅色ガ淡紅色ニ變ゼルトキ中止セヨト云ヒ、Bayet氏ハ周圍ノ皮膚ヨリモ幾分着色セルトキ中止スルヲ可トシ、Simpson氏ハ淡薔薇色ニテ中止シ、Beck氏ハ海綿腫ガ反應ニ依テ一度腫脹スル迄貼用スベシト述べ、皆見教授ハ全然褪色スルニ至ラザル程度ニテ、即チ7—8分ノ成績ニテ中止スルヲ可トセリ。

濾過法ニ就テモ大體ニ於テ表在性單純性ノモノニハ濾過セズ、深在性海綿様ノモノニハ、0.2—0.5 耗ノ「アルミニウム」ニテ濾過シテ貼用ストナス。

貼用時間モ1日通常20—30—40'ヲ限度トナシ、若シ1時間以上ヲ貼用セバ、皆見教授ノ2)式ニ依ルヲ得策ナリト言ハル。

症 例

第 1 表

番 號	姓	年 齡	性	診 斷	部 位	治療最終迄ニ要セル 回數及ビR總量
1	中 原	7 箇月半	♀	單 純 性	左 前 膊	4 回, R 72
2	松 本	8 箇月	♂	〃	左 下 口 角	9 回, R 190
3	安 藤	1 年	♀	〃	額 中 央	15 回, R 67.2
4	豐 田	3 箇月	♀	〃	鼻 尖	7 回, R 122
5	深 澤	3 箇月	♀	〃	左眼外眥下方	11 回, R 181
6	八 木	7 箇月	♂	海 綿 様	額	14 回, R 164
7	難 波	9 箇月	♂	〃	鼻 唇 溝	11 回, R 292
8	仁 科	7 箇月	♀	〃	額	6 回, R 109
9	柴 原	4 箇月	♀	〃	前 頭	12 回, R 253
10	木 村	2 箇月	♀	〃	左 前 膊	12 回, R 160
11	延 江	2 箇月	♀	〃	左 頸	9 回, R 75
12	松 田	5 箇月	♀	〃	左陰股皺襞	5 回, R 57.2
13	河 野	7 箇月	♀	〃	左 眼 外 眥	8 回, R 344
14	本 郷	11 歳	♀	〃	鼻 尖	11 回, R 248
15	山 本	7 箇月	♂	〃	右 眼 外 眥	9 回, R 157

Rハ「ラヂウム」ノ略號トス。

R 總量ハ mg 時間ニテ表ス。

以下症例ハ總テ筒形「ラヂウム」ヲ使用セリ、即チ此形ノ「ラヂウム」ニ於テハ、「ラヂウム」ハ細長キ「ガラス」管ニ密閉セラレ、保護管トシテハ、0.1mm厚サノ銀筒ニ入レ、其上ヲ13mmノ眞鍮筒ニテ被ヒ、其上ニ「ニッケル」鍍金ヲナセルモノナリ、其他ニハ濾過セザリキ、但シ當科ニテ銀筒ヨリ取出シテ使用シ一度紛失セルコトアルヲ以テ、其後ハ銀筒ノ儘使用スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ、是レ實際ニ余等ノ目的ニ多少副ハザルコトアリト雖モ、蓋シ止ムヲ得ザルモノナリ、之ヲ直接ニ皮膚ニ貼用作用セシメシモノニシテ、周圍ノ健康皮膚ヲ保護スル爲ニハ、總テ1.5—2mmノ鉛板ヲ使用セリ、而シテ以下Rハ「ラヂウム」ノ略號トス、而シテRノ量ハmg時間ニテ表ハシ、且1cm²ノ病竈面ニ對スル量ニテ示ス、當教室ニテ治療セル者可ナリ多キモ途中ニ廢療セル者或ハ再來セザル者等ハ擧ゲズシテ經過ヲ觀察シ得シ數例ヲ掲グルコトトス、

第1例 中原某女、生後7箇月半、初診、大正15年11月22日、診斷、單純性血管腫、

現症 生後3箇月ニシテ、左前膊ノ外側ニ2箇ノ米粒大ノ紅斑ヲ認ム、大サ併セテ1cm²、

經過 22/XI—27/XII迄1週1回1時間宛4回、計R72mg時間ヲ貼用シ、2箇月休止ス、翌年10/IIニハ血管腫ハ全ク治癒スルニ至ル、治療總回數4回 總量R72mg時間、

第2例 松本某男、生後8箇月、初診、大正15年5月14日、診斷、單純性血管腫、

現症 生後2週間ニシテ、左口角ノ下方ニ豌豆大ノ暗赤色斑アリ、大サ1cm²、尙ホ口唇ノ内側ニモ2—3ノ麻實大ノ赤斑アリ、

經過 14/V—16/VI迄約1週間ニ1回1時間宛5回、計R90mg時間貼用、其後約3箇月中止シ、再ビ同年20/IX—25/IX迄4回 計R100mg時間貼用ス、治療總回數9回 R總量190mg時間貼用ス、治療總回數9回、R總量190mg時間、其後患者再來セザルモ、恐ラク治癒セル爲ナラン、

第3例 安藤某女、生後1年、初診、昭和2年2月23日、診斷、單純性血管腫、

現症 生後ヨリ額ノ中央部ニ幅及ビ長サ各5cm大ノ暗紅斑ヲ認ム、

經過 28/II—9/V迄1週1回1時間宛9回、計R41.2mg時間貼用後2箇月ニテ、稍々紅斑ノ消褪ヲ認ム、更ニ27/VI—25/VII迄ニ同様ノ間隔ニテ計5回、計R20mg時間貼用シ、1箇月半休止シ、7/IXニ1回、R6mg時間貼用後半箇月ニシテ褪色著明ナリ、昭和3年12/IIニ再來セシニ、殆ド治癒シ、健康皮膚面ト一見區別ツカザルニ至ル、治療總回數15回、R總量67.2mg時間、

第4例 豐田某女、生後3箇月、初診、昭和2年5月27日、診斷、單純性血管腫、

現症 生後1週間程シテ、鼻尖部ニ發赤部ヲ生ジ、漸次擴大シ、今日ニテハ鼻尖部ニ米粒大ノ鮮紅色斑ヲ形成ス、大サ1cm²、

經過 27/V—17/VI迄1週1回1時間宛4回、計R92mg時間、貼用後1箇月半ニテ、褪色著明ナルヲ認ム、其後更ニ27/VII—17/VIII迄間隔ニテ3回 計R30mg時間貼用後2箇月ニテ殆ド治癒スルニ至ル、治療總回數7回、R總量122mg時間、

第5例 深澤某女、生後3箇月半、初診、昭和2年4月15日、診斷、單純性血管腫、

現症 生後10日ニシテ、左眼外眥ノ下方ニ多數ノ粟粒大乃至麻實大ノ赤斑集マリテ爪甲大ヲ成ス、大サ2cm²、

經過 5/VIII—26/VIII迄1週1回1時間宛4回、計R45mg時間貼用後1箇月休止、再ビ27/IX—19/X迄ニ4回、計R45mg時間貼用後1箇月休止、7/XII—21/XII迄3回、計R30.7mg時間貼用ニテ、血管腫ノ

下半褪色著明，其後約1箇月半ニテ，3/IIニハ全體ニ褪色ヲ認ム。治療總回數11回，R總量181mg時間。

第6例 八木某男，生後7箇月，初診，大正15年3月6日，診斷，海綿樣血管腫。

現症 生後ヨリ額部ニ赤色隆起セル腫瘍アリ，漸次ニ擴大シ今日ニ及ブ，今日ニテハ額部ニ蠶豆大ノ赤色隆起セル腫瘍ヲ認ム，大サ2cm²。

經過 8/II—16/III迄1週1回1時間宛2回，計R22mg時間貼用後，1週間ニシテ，其部ノ皮膚ハ「ラヂウム」ノ反應ニテ暗赤色ヲ呈ス，22/III—29/III迄ニ同様ノ間隔ニテ2回，計R26mg時間貼用後1箇月休止，26/IVニハ稍々褪色ス，26/IV—12/V迄3回，計R30mg時間貼用後1箇月中止ニテ14/VIニハ，褪色以前ヨリモ増ス，14/VI1回1時間宛2箇所計R22mg時間貼用後1週間ニテ褪色著明ニシテ稍々蒼白色トナル，更ニ21/VI1回1時間R10mg時間貼用ニテ3箇月休止ス，22/IXニハ血管腫ハ殆ド治癒スルモ，其上下端ニ於テ尚ホ少シク着色セル部分ヲ認ム，依テ22/IX—29/IX迄ニ2回，計R25mg時間貼用後2箇月休止ス，19/XI日ニハ腫瘍ノ大部分ハ褪色著明ナルモ，唯其上端ニ於テ赤色部ヲ認ム，19/XI日1回，R6mg時間貼用後4箇月休止，翌年10/III日ニハ腫瘍ハ全ク治癒セルモ，未ダ麻實大ノ赤斑部ヲ認ム，10/III1回，R5mg時間貼用シ，更ニ2箇月休止，4/V1回，R15mg時間貼用ニテ全ク治癒セリ，治療總回數14回，R總量164mg時間。

第7例 難波某男，生後9箇月，初診，大正15年10月15日，診斷，海綿樣血管腫。

現症 生後3箇月ヨリ左鼻唇溝ニ，麻實大ヨリ豌豆大ノ皮面ヨリ稍々隆起セル暗紅色ノ腫瘍ヲ認ム，大サ1cm²。

經過 15/X—3/XI迄約1週間ノ間隔ニテ1時間宛3回，計R100mg時間貼用ニテ1箇月休止，再ビ20/XII—28/I迄計4回，計R102mg時間貼用ニテ2箇月半休止セルニ，22/IVニハ腫瘍ノ褪色著明ナルモノアリ，更ニ同日1回，R30mg時間貼用シ，1箇月半休止ス，15/VIニハ褪色益々著明ニシテ，更ニ同日ヨリ1/VII迄3回，計R60mg時間貼用ス，其後5箇月ニテ昭和2年末ニハ，腫瘍ハ殆ド治癒スルニ至ル，治療總回數11回，R總量292mg時間。

第8例 仁科某女，生後7箇月，初診，大正15年10月12日，診斷，海綿樣血管腫。

現症 生後10日頃ニ額ニ5錢白銅大ノ赤キ腫瘍ヲ認メ，漸次増大シテ今日ニ及ブ，現今ニテハ額ノ中央部ニ拇指頭大ノ暗紅色ノ皮膚面ヨリ隆起セル腫瘍ヲ認ム，大サ1.5cm²。

經過 12/X—12/XI迄1週1回1時間宛5回，計R94.6mg時間貼用後2箇月休止，14/Iニ再ビ1回，R14.6mg時間貼用セリ，後1週間ニテ22/Iニハ褪色著明ナルモノアリ，治療總回數6回，R總量109mg時間。

第9例 柴原某女，生後4箇月，初診，大正15年6月24日，診斷，海綿樣血管腫。

現症 生後直ニ，前頭部ニ隆起セル赤色ノ腫瘍ヲ認ム，漸次増大ノ傾向ヲ有シ，現時ハ前頭部ニ豌豆大ノ隆起セル赤色ノ腫瘍ヲ認ム，大サ1cm²。

經過 24/VI—14/VII迄1週1回1時間宛4回，計R101mg時間貼用セルニ，後1箇月半ニテ一部潰瘍ヲ形成ス，更ニ其部ヲ避ケテ，8/IX—13/IX迄2回，計R40mg時間貼用セルニ，約2箇月後ニハ腫瘍ノ大サハ以前ト變ラズ，隆起ハ稍々減ゼルモ，中央部ニ白斑形成ヲ見ル，其後8/XI—8/XII迄ニ白斑部ヲ避ケテ間隔モ以前ト同ジク計6回，計R112mg時間貼用ス，腫瘍大イニ輕快セリ，治療總數12回，253mg時間。

第10例 木村某女、生後2箇月、初診、大正15年4月17日、診断、海面様血管腫。

現症 生後直ニ、左前膊部ニ示指頭大ノ稍々皮膚面ヨリ隆起セル鮮紅色ノ腫瘍ヲ認ム、大サ2cm²。

経過 17/IV 1回、R 10 mg 時間貼用後1箇月半休止シ、再ビ9/VI—10/IX迄1週1回1時間宛9回、計R 125 mg 時間貼用後1箇月半休止セルニ、25/Xニハ色調褪色シ始メ、紅色度大イニ減ズ、更ニ同日ヨリ3/XI迄2回、計25 mg 時間貼用シテ殆ド全治セリ、治療總回数12回、R 總量160 mg 時間。

第11例 延江某女、生後2箇月、初診、大正15年12月1日、診断、海綿様血管腫。

現症 患者ハ8箇月ノ早産兒ニシテ、生後4—5日ニシテ、左頸部ニ麻實大ノ赤色ノ腫瘍ヲ發シ、漸次増大ノ傾向ヲ有ス、見ルニ、左頸部ニ長サ4 cm、幅3 cmノ暗赤色ノ皮膚面ヨリ約1 cm隆起セル腫瘍ヲ認メ、其下方ハ多少糜爛ヲ呈ス。

経過 糜爛面ニハ「ヨードホルムガーゼ」ヲ蔽ヒ、其上ヨリ2% 硼酸水ニテ濕布ヲナス、10/XII—24/XII迄2回、計R 14 mg 時間貼用シ、約3週間休止後、17/I—14/II迄1週1回1時間宛4回、計R 38 mg 時間貼用後1週間ニテ、23/IIニハ潰瘍治癒ニ至リ其跡ニ白斑ヲ殘ス、23/II—11/III迄3回、計R 24 mg 時間貼用後、腫瘍殆ド治癒セル爲カ患者再來セズ、治療總回数9回、R 總量75 mg 時間。

第12例 松田某女、生後5箇月、初診、大正15年12月3日、診断、海綿様血管腫。

現症 生後1週間ニシテ、左陰股皺襞部ニ多少皮膚面ヨリ隆起セル暗紅色ノ腫瘍ヲ認メ、其後放置セルニ漸次増大ノ傾向ヲ有シ、本年9月頃ヨリ其表面ハ糜爛ヲ呈シ、出血スルニ至ル、醫治ヲ受ケ撒布藥ヲ行ヒシモ治癒セズ今日ニ至ル、現時ニテハ、左陰股皺襞ニ長サ5 cm、幅2.5 cm大ノ皮膚面ヨリ輕度ニ隆起セル暗紅色ノ腫瘍ヲ認ム。

経過 糜爛面ニハ「ヨードホルムガーゼ」ヲ蔽ヒ、其上ヨリ2% 硼酸水ノ濕布ヲ行フ、17/XII—22/XII迄2回、計R 25 mg 時間貼用後半箇月休止、更ニ12/I—21/I迄3回、計R 32.2 mg 時間貼用ニテ、腫瘍稍々褪色シ始ム、其後患者再來セズシテ昭和3年27/II再來セシニ腫瘍ノ中央部ハ瘢痕治癒セシモ、其邊緣ニ於テ稍々赤色部ヲ殘ス、治療總回数5回、R 總量57.2 mg 時間。

第13例 河野某女、生後7箇月、初診、大正15年11月19日、診断、海綿様血管腫。

現症 生後7日ニシテ、左眼外眥部ニ不規則ナル豌豆大鮮紅色ノ皮膚面ヨリ輕度ニ隆起セル腫瘍ヲ認ム、大サ0.5 cm²。

経過 19/XI—10/XII迄1週1回1時間宛4回、計R 180 mg 時間貼用後1箇月半休止、更ニ28/Iニ1回、R 60 mg 時間貼用ニテ1箇月休止、再ビ28/IIニ1回、R 20 mg 時間貼用ニテ1箇月休止、更ニ28/IIIニ1回、R 24 mg 時間貼用ニテ1箇月休止、18/IV 1回、R 60 mg 時間貼用ス、其後1年8箇月ニシテ、昭和3年12/II患者ノ來信ニテ腫瘍ハ殆ド消失シテ、一見シテ見分ケ難クナリシト、治療總回数8回、R 總量344 mg。

第14例 本郷某女、11歳、初診、大正15年3月26日、診断、海綿様血管腫。

現症 10歳ノ夏頃ヨリ顔面ニ、處々ニ發疹ヲ生ジ、醫治ニテ治癒セルモ、鼻尖部ニ於ケル疹ハ治癒セズシテ今日ニ至ル、見ルニ鼻尖部ニ鮮紅色ノ皮膚面ヨリ隆起セル腫瘍ヲ認ム、大サ1 cm²。

経過 26/III—12/IV迄1週1回1時間宛4回、計R 83 mg 時間貼用後1箇月半休止、更ニ11/VI—6/VIII迄4回、計R 91 mg 時間貼用後2箇月休止、更ニ5/XI—17/XI迄3回、計R 74 mg 時間貼用ス、其後約1年3箇月ニシテ昭和3年22/IIニ再來セシニ、腫瘍ハ殆ド消褪シ、色モ蒼白色トナル、治療總回数11回、R 總

量 248 mg 時間。

第 15 例 山本某男。生後 7 箇月。初診。昭和 2 年 3 月 30 日。診断。海綿様血管腫。

現症 生後 3 箇月程シテ、右眼外眥ニ約蠶豆大ノ暗赤色ノ皮膚面ヨリ隆起セル腫瘍ヲ認ム。大サ 1.5 cm²。

経過 30/III—25/IV 迄 1 週間 1 回 1 時間宛 4 回、計 R 73 mg 時間貼用後 2 箇月休止セルニ、4/V ニハ反應ニ依テ暗赤褐色ニ着色セルヲ認ム。更ニ 15/VI—22/VI 迄 2 回、計 R 35 mg 時間貼用後 3 箇月休止セルニ、21/IX ニハ色調褪色シ始ム。殊ニ其中央部ニ於テ著明ナリ。同日ヨリ 5/X 迄 3 回、計 R 48 mg 時間貼用後 1 箇月半休止セルニ、16/XI ニハ褪色著明ナリ。治療總回數 9 回。R 總量 157 mg 時間。

概 括

我教室ニ於テ最近 2 年間ニ血管腫ノ「ラヂウム」療法ヲ施セルモノハ、大正 15 年度ニハ 30 人、昭和 2 年度 38 人ナリ。大正 15 年度 30 人中、性別ニテ、男子 11 人、女子 19 人ニシテ、内單純性 10 人、海綿様 20 人ナリ。更ニ單純性ニテ、男子 3 人、女子 7 人、海綿様ニハ男子 8 人、女子 12 人ナリ。昭和 2 年度ノ 38 人中、性別ニテ、男子 8 人、女子 30 人ニシテ、内單純性 22 人、海綿様 16 人ナリ。之ヲ性別ニテ、單純性ニハ、男子 6 人、女子 16 人ニシテ、海綿様ニハ男子 2 人、女子 14 人ヲ數フ。由是觀之、前後 2 箇年ヲ通シテ 68 人中、單純性 32 人、海綿様 36 人ナリ。即チ血管腫ニテハ、單純性モ、海綿様モ其發現ニ於テハ略ボ同一ナルコトヲ認ム。更ニ性別ニテ單純性 32 人中、男子 9 人、女子 23 人ニシテ、海綿様 36 人中、男子 10 人、女子 26 人ニシテ、兩方共ニ明カニ女子ノ多キコトヲ示ス。更ニ之ヲ兩年ヲ通シテ觀ルニ、68 人中、女子 49 人ニシテ男子 19 人ナリ。即チ女子ハ男子ニ比シテ 2 倍半モ多數ナリ。是レ血管腫ニ於テハ、女子ノ罹患率男子ヨリモ多キコトヲ示スモ、亦一面ニ於テ、比較的ニ疼痛等ノナキ關係上、等閑ニ附サレ易キ性質ノ疾患ナレバ、其ニ求ムル所ハ美容上ノ點ニアルハ、爭ハレザル事實ニシテ、之ガ一層男子ヨリモ、女子ニ於テ痛切ニ美容上ニ感ゼラルル爲ナラント思ハル。

又之ヲ發生部位ノ方面ヨリ見ルモ、68 人中其顔面ニ發生セルモノハ 40 人ノ多數ヲ示セリ。然レドモ他ノ部分ニ於ケルモノ、即チ被覆部ニアルモノハ、敢テ之ガ治療ヲ受ケザルモノモアルベシ。然ラバ其顔面ニ發生セル者ノ醫治ヲ乞フ者多キハ如何、是レ全クニ美容ノ點ニカカリテアルコトハ何人モ想像サレ得ベキコトト信ズ。血管腫ノ治療ノ目的ガ斯ク其美容ヲ主眼トスル事實ヨリシテ、血管腫ノ療法ガ如何ニ困難ナルモノカ、將タ又如何ニ慎重ノ態度ヲ以テ治療ニ當ラザルベカラザルカヲ物語ルモノニシテ、假令病症ハ消失ストモ、其跡ニ却テ癍痕、色素沈着或ハ脫失ノタメニ醜形ヲ殘スガ如キコト無キ様ニ、一層ノ注意ヲ肝要トス。

我教室ニ於テ使用セル「ラヂウム」ハ總テ筒形「ラヂウム」ニシテ、即チ本「ラヂウム」ハ既ニ銀及ビ眞鍮ニ覆ハルル關係上、ソレ自身ニ於テ、既ニ濾過作用ヲ營ムモノニシテ、比較的ニ軟線ニ乏シキ關係上、余ハ全然特別ノ濾過法ヲ用ヒズシテ、直接ニ皮膚ニ貼用セリ。使用法ハナルベク其副作用ヲ防止スル目的上、1 日貼用後 1 週間或ハ 2 週間ノ間歇ニテ、大多數ハ 1 週間ノ

間歇ヲ以テ繰リ返ス法ヲ用ヒシモノニシテ、「ラヂウム」ノ數少ナキ爲此法ヲ採リシハ止ムヲ得ザルモノアルナリ。皆見教授ハコノ方法ニテハ副作用ヲ豫防スル點ニ於テ理想的ナルモ、「ラヂウム」ノ影響モ弱キ爲ニ徒ニ時間ヲ費スノ煩アリ。然レドモ此際貼用時間稍々長ケレバ、效果著明ナリト云ハル。從テ我教室ニ於テモ此缺點ヲ補フ目的ニテ普通貼用時間ハ、特ニ毎回1—1.5時間貼用スルコトセリ。而シテ貼用ニ際シテモ、ヨク「ラヂウム」ノ大サト血管腫ノ大サガ一致セルモノナルトキハ、極メテ治療上好都合ナルモ、全面平等ニ割當テルコト困難ナル場合ニハ、血管腫ヲ幾ツカニ區分シテ順次ニ貼用シ、其經過中幾分褪色セル部分ニハ2mmノ鉛ヲ以テ之ヲ被ヒ、他ノ部分ニ貼用ヲ繼續セリ。而シテ治療中止ノ時期ニ於テモ、大體ニ淡紅色ヲ呈セルトキ中止セルモノニシテ、所謂皆見教授ノ7—8分ノ成績ニテ中止シテ著明ノ效果ヲ認メタリ血管腫ノ療法ニハ過ギタルハ及バザルコトヲ留意スベキナリ。

血管腫治療上、幼若孰レニ其效果見ルベキモノアリヤニ關シテハ、今日ニテハ一般ニ、幼若ナルトキ、早ク治療ヲ施セバ良結果ヲ認メ得ベシトハ前述ノ如シ。余ノ15例ニ於テモ5例ハ單純性、10例ハ海綿様ニシテ、年齢ノ點ヨリ云フモ、1例ノ11歳ヲ除キテ他ハ全部1歳未満ノ者ノミナリ。此内5箇月未満7例、6—12箇月7例ナリ。即チ余ノ例ニ於テハ1歳以上ノ者僅ニ1例ナル關係上、之ヲ幼若孰レニ其治療の效果大ナリトハ斷定シ得ザルモ、少クトモ1歳未満ノ者ニ於テ治療の效果見ルベキモノアルハ明確ナリ。而シテ單純性ニテハ平均 1cm^2 ニテ126.4mg時間、海綿様ニテハ185.92mg時間ヲ要シタリ。然レドモ何レノ型ニハ幾何ノmg時間ヲ貼用スベシト云フ規則ヲ設クルコト能ハズ。個々ノ場合ニ依リ治療ヲ取捨スベキモノナリ。15例ニ於テ平均9回ノ貼用ニ由リ治癒セルヲ見ルモ、假令治癒ニ長時日ヲ要スト雖モ通院日數ハ甚ダ少キモノナリ。余ノ教室ニ於テ4—5回貼用後1.5—2箇月休止セシムルハ一ニ治療ノ失敗ヲ豫防スルノ意ニ外ナラズ。但シ廣面ノ場合或ハ年齢ノ大ナル者ニハ「ラヂウム」使用稍々困難ナルコトアリテ雪狀炭酸等ニ委スベキコトアリ。

要スルニ「ラヂウム」療法ハ、其治療ニ比較的長時日ヲ要スル缺點アルモ、其治療ヲ無疼痛ニ行ヒ得ルコト、且治療中注意如何ニ依ツテハ、跡ニ何等ノ醜形モ殘サズ完全ニ治癒シ得ル理想的療法ニシテ、之ヲ彼ノ雪狀炭酸療法ガ、治療期間ハヨシ比較的短日月ニテ遂行シ得ルモ、患者ニ疼痛ヲ與ヘ且時ニハ癰痕或ハ色素異常消失等ノ醜形ヲ殘スニ比シテ、血管腫ノ治療ニ於テハ數等優リ、眞ニ用フルニ足ルベキ療法ナリト信ズ。余ハ筒形ノミヲ以テ治療シタルモ、「ラヂウム」製品ノ種類ニ依リテ今少シク治療期間ニ於テ良好ナル結果ヲ認メ得ルモノナルコトヲ確信ス。且急グ場合ニハ皆見教授ノ第1法ヲ採レバ治療割合ニ速ナルハ明カナリ。

結 論

- 1) 血管腫ニ對スル「ラヂウム」療法ハ、治療ニ長日月ヲ要スル缺點アレドモ、疼痛及ビ癰痕、

色素異常等ノ醜形ヲ殘サザル點ニ於テ雪狀炭酸療法ニ優ル。加之時ニハ後者ヨリモ短時日ニ治療スルコトアリ。

2) 余等ハ便宜上筒形「ラヂウム」ヲ直接皮膚面ニ1日1回1時間貼用後、1—2週間ノ間歇ヲ以テ繰返シ效果顯著ナル者アリキ。

3) 治療中止ノ標準ハ、大體ニ於テ患部淡紅色トナレル時ヲ以テ中止シ、以後2—3箇月經過觀察スル方可ナルガ如シ。

4) 幼年者殊ニ1歳未満ノ者ニ於テ、治療の效果良好ナリ。

擧筆スルニ當リ終始懇篤ナル御指導ヲ賜ヒタル恩師皆見教授ニ謹テ深謝ス。(3. 2. 23. 受稿)

文 獻

- 1) 安藤, 三木, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第17卷. 第12號. 2) Bayet, Das Radium. wien. 1912.
- 3) Beck, Münch. med. Woch. No. 39, 1921. 4) Barcat, Strahlentherapie. Bd. 4, 1914.
- 5) 土肥, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第12卷. 第11號. 6) 土肥, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第14卷. 第5號.
- 7) 土肥, 皮膚科學 11 版上. 8) Exner, Wien. kl. Woch. No. 23, 1906. 9) Fournier, Münch. med. Woch. No. 13, 1908.
- 10) 藤谷, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第14卷. 第4號. 11) 藤谷, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第14卷. 第10號.
- 12) Gudzent, Grundriss zum Studium der Radiumtherapie. Berlin. 1919. 13) Kromayer, Deutsch. med. Woch. No. 7, 1910. 14) Laborde, Journ. of A. M. A. Vol. 77, No. 5, 1921.
- 15) 峯, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第12卷. 第8號. 16) 松浦, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第14卷. 第5號.
- 17) 皆見, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第23卷. 第1號. 18) Newcomet, Amer. Journ. of Roent. July 1920.
- 19) Newcomet, Urol. & cut. review. Oct. 1920. 20) 岡村, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第12卷. 第12號.
- 21) Riehl, Wien. med. Woch. No. 50, 1912. 22) Simson, Journ. of A. M. A. Vol. 89, No. 24, 1927.
- 23) 櫻根, 山田, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第13卷. 第11號. 24) 宗, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第15卷. 第6號.
- 25) 志賀, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第27卷. 第3號. 26) 高橋, 皮膚科泌尿器科雜誌. 第15卷. 第8號.
- 27) Wickham & Degrais, Radiumtherapy. London. 1910. 28) Wickham, Radium in Biologie u. Heilkunde. Bd. 1, H. 7, 1912.